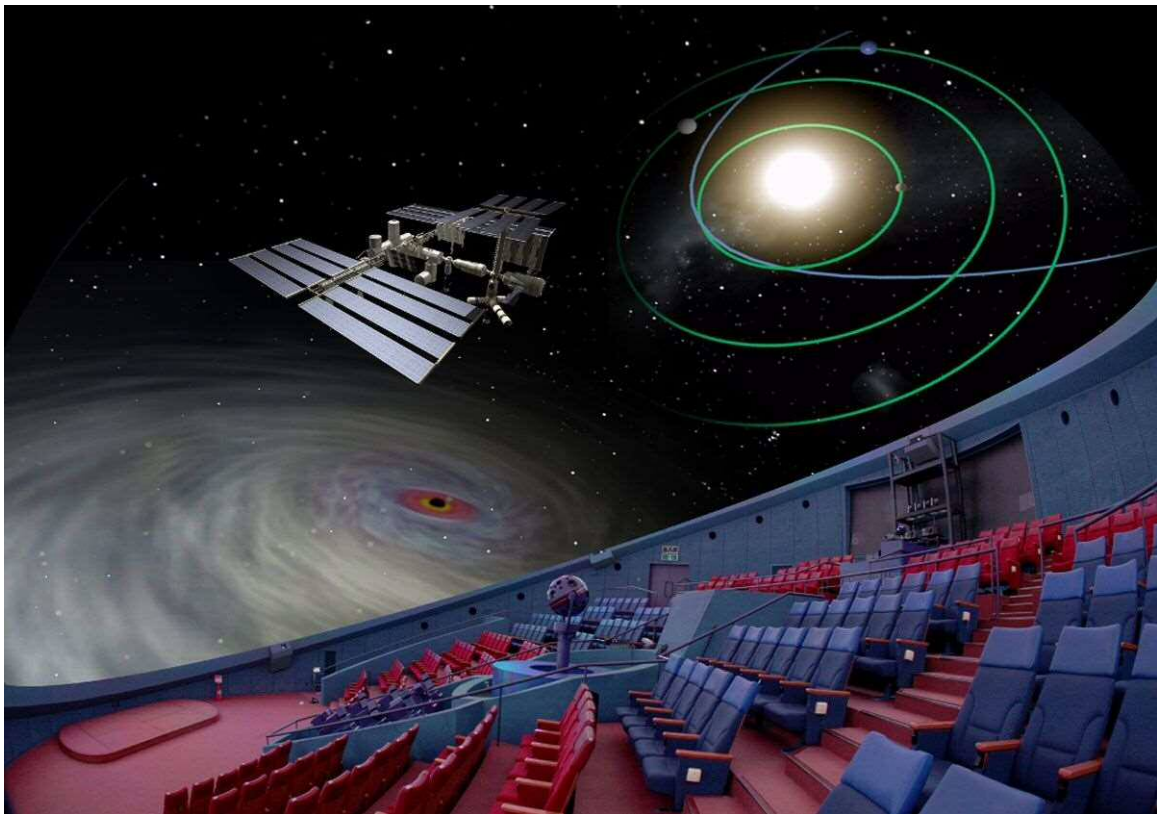




「宇宙のまち さいたま」 教育プロジェクト



©GOTO

さいたま市教育委員会

目 次

第1章「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクト

1 はじめに	1
(1)教育プロジェクト策定の経緯等	1
(2)教育プロジェクトの構成等	2
2 目指す人間像	2
3 必要な資質・能力等	3
4 基本理念と基本的方向性	4
(1)基本理念	4
(2)基本的方向性	5

第2章「宇宙のまち さいたま」アクションプラン

1 アクションプランの設定	6
2 アクションプランの見方や考え方	6
【基本的方向性1】	7
【基本的方向性2】	8
【基本的方向性3】	9

グランドデザイン	10
----------	----

「宇宙のまち さいたま」

第1章 「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクト

1 はじめに

(1)教育プロジェクト策定の経緯等

アポロ11号が月に着陸し、人類が初めて月面に降り立ってから半世紀が過ぎました。近年、宇宙分野の技術革新が進み、世界中の国々や企業が月面開発や火星探査、小惑星資源開発、宇宙旅行などの宇宙開発に次々と着手しています。

国は、宇宙基本法に基づき2015年4月に策定した「宇宙基本計画」において、今後20年程度を見据えた10年間の長期的・具体的整備計画を示し、2017年5月には、宇宙産業の方向性を示した「宇宙産業ビジョン2030」を策定しました。このことを受け、JAXA（宇宙航空研究開発機構）は、2018年3月に発表した中長期計画の中で、宇宙利用拡大や国際協調を基本として、人類の活動領域を拡大する「国際宇宙探査」など、宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト等について示しています。

このように、アポロ計画などで宇宙を目指した時代から、現在は、宇宙を開発し、利用することにより、我々の生活を豊かなものにする時代へと大きく変革しようとしています。

例えば、宇宙開発による宇宙の利用として、通信衛星によるテレビ放送や気象衛星による天気予報、GPSによるナビゲーション等が、様々な形で提供されるなど、近年我々の身近にある基礎的なインフラにおいても、大きな変革の波が訪れています。

今後、宇宙開発がさらに進むと、宇宙ビジネスの発展、火星・月への移住、宇宙旅行、宇宙資源の活用など、宇宙を利用拡大する「宇宙時代」が到来し、新たな職業の創出をはじめ、社会環境、生活環境等が大きく変化することが予想されます。

こうした「宇宙時代」においては、未来を見据え、環境等の変化に順応し、未来の創り手としてたくましく生きていく力を身に付けた人材や、宇宙分野の最前線で活躍する人材を育成することが求められています。しかしながら、「宇宙産業ビジョン2030」において、宇宙分野における人材不足が課題として挙げられていることを踏まえると、宇宙時代を支える人材確保のためには、幼少期から宇宙や科学に興味・関心をもち、宇宙に関わる仕事に就きたいという志をもつ青少年を育てることが大切であり、教育の果たす役割は今まで以上に大きくなると考えます。

本市は、我が国を代表する若田光一宇宙飛行士が生まれ育ったまちであり、若田宇宙飛行士の偉大な功績を広く市民に伝えるための事業や、市民の宇宙へのあこがれや興味・関心を高める事業を数多く実施するなど、長年にわたり宇宙や科学分野の教育に力を入れてきました。その中でも特徴的な事業として、政令指定都市で唯一、全ての小学校第4学年と、中学校第3学年、特別支援学校を対象とし、若田名誉館長の名を冠した科学館等においてプラネタリウムの学習投影を実施しており、毎年2万人以上の児童生徒に宇宙の素晴らしさを体感する学習機会を提供しております。

さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）では、このような本市の実情を

踏まえるとともに、「宇宙時代」の到来を見据え、これまでの宇宙や科学に関する教育プログラムを、STEAM 教育を柱に総合的・体系的に整理・統合し、教育を主軸とした「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクトを策定しました。

本教育プロジェクトの策定により、「宇宙時代」において未来の創り手としてたくましく生きていく人材や、若田宇宙飛行士のような、宇宙や科学へのあこがれや夢、そして大きな志をもった人材を輩出してまいります。

(2)教育プロジェクトの構成等

本教育プロジェクトは、「宇宙のまち さいたま」が目指す人間像や、「宇宙時代」に必要な資質・能力、それを具現化するための基本理念及び基本的方向性からなる『宇宙のまち さいたま』教育プロジェクト」と、教育施策である具体の個別の事業からなる『宇宙のまち さいたま』アクションプラン』により構成されます。(参照：グランドデザイン p.10)

2 目指す人間像

「宇宙のまち さいたま」の中心に据えるのは、教育であり、人材の育成です。

若田宇宙飛行士は、少年時代、アポロ 11 号の月面着陸をテレビで見て、宇宙へのあこがれを抱きました。本市には、その若田宇宙飛行士にあこがれ、宇宙飛行士や宇宙開発に携わりたいと夢や志を抱いている子どもたちや、若田氏の活躍に刺激され、世代を超えて宇宙や科学に大いなる希望を抱いている市民がたくさんいます。

また、教育委員会では、市民一人ひとりが、自己実現を図っていくうえで、推進力となる「PLAN THE NEXT 3つのGで日本一の教育都市へ」という考えを掲げ、第一のG (Grit グリット)では、「やり抜く力で『真の学力』」を、第二のG (Global グローバル)では、「国際社会で活躍できる力」を、第三のG (Growth グロウス)では、「一人ひとりの成長を支え、『生涯学び続ける力』」をそれぞれ育成することとし、22世紀を見据えた教育施策の展開を目指しております。

このような本市の特長を基盤として、宇宙開発が今後急速に進み、社会環境、生活環境が大きく変化し、予測不能な「宇宙時代」が到来しても、グローバル化や情報化、AIやIoT等の技術革新を背景として、他者と協働して地球規模・宇宙規模の課題解決に、最後まであきらめずに挑戦し続けようとする力や、多角的なものの見方や考え方、自律的、主体的、継続的な学習態度の醸成が肝要と考えました。

そこで、「宇宙のまち さいたま」では、目指す人間像を次のように設定しました。

宇宙時代をたくましく生き 未来を創造する人

○宇宙開発と宇宙利用拡大が急速に進む予測不能な「宇宙時代」において、他者と協働し、常に挑戦し続け、新たな時代を創り出すことができる人

○宇宙飛行士や科学者など、宇宙開発の最前線で活躍するという夢や志をもち、その実現に向けて努力し続けることができる人

3 必要な資質・能力等

若田宇宙飛行士は、国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在中に、宇宙に対する思いを象徴した言葉をワッペンに刻み、着用していたフライトスーツの腕に付けて、宇宙でのミッションの遂行に当たっていました。

そのワッペンの表には、「夢」、「探究心」、「思いやり」という3つの言葉が、そして、ワッペンの裏には、次のような言葉が記されておりました。

- ・宇宙は夢を与えてくれる創造の空間（※1）
- ・新たな知見を得、応用して行くための探究心（※2）
- ・宇宙飛行にはチームワークが不可欠（※3）

教育委員会では、この「夢」、「探究心」、「思いやり」という3つの言葉が、本市の目指す人間像「宇宙時代をたくましく生き、未来を創造する人」を具現化するために欠かせないものであると考えます。

なぜなら、「夢」をもつことは、たくましく生きていく源となり、「探究心」をもつことは、新しい時代を切り拓く原動力となり、さらに、「思いやり」をもつことは、仲間を信じ、お互いが協働しながら、未来を生き抜いていくことにつながると考えるからです。

そこで、「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクトでは、「夢」、「探究心」、「思いやり」をスローガンとして、目指す人間像を具現化するために身に付けさせたい資質・能力を次のように設定しました。

スローガン	資質・能力	具体的能力
「夢」	宇宙・科学技術への興味・関心	宇宙や科学技術の「面白さ」や「不思議」を見付ける力
	想像力(未来を想像する力) ・創造力(未来を創り出す力)	多角的な視点を持ち、自分なりに発想・創造する力
「探究心」	問題解決能力	他者と協働し、試行錯誤しながら主体的に問題を解決する力
	最後まであきらめずにやり抜く力	夢や目標を達成するために、挑戦し続け、継続的に粘り強く努力し、最後までやり遂げる力
「思いやり」	表現力 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力等	自分の思いや考えを、相手意識・目的意識をもって分かりやすく伝える力

- ※1 宇宙は限りない夢を与えてくれる創造の空間。「きぼう」は人が宇宙を拓く「夢」を育む場。「夢」という目標を定めることにより、そこに到達するための方法や手段が自ずと明らかになり、失敗してもあきらめずに努力すればきっと実現できるということを次世代を担う子供たちに伝えていきたい。
- ※2 科学技術立国として発展するために、新たな知見を得、暮らしに役立つ技術に応用していくための探究心を大切にすることが不可欠。興味の対象に対してとことん考え抜き解を導こうとする探究心を育てる教育も重要。リスクは伴うが人間が宇宙に行くことで地球人全体が享受できる新しい知見や、地上での生活を豊かにする新技術が得られる。有人宇宙開発は人類が将来にわたり継続していくために、ゼロにはできないリスクを受け入れた上で取り組む価値のある仕事であるということを伝えたい。
- ※3 宇宙開発は世界の人々と協力しあい(仲間への思いやり)、地球環境を守りながら(地球への思いやり)、地球人としての価値観と文化を育むことに貢献できる仕事。宇宙ミッションを安全かつ確実に遂行するための鍵は、構成員一人一人がチームの不可欠な一員として機能すること。仲間への思いやりはチームワークを高めていくためになくてはならない。また、「思いやり」という言葉を通して命の大切さを伝えたい。

「ミッションロゴについて」(JAXA 宇宙航空研究開発機構ウェブサイトより)

4 基本理念と基本的方向性

(1) 基本理念

宇宙や科学技術への夢や希望をはぐくむ教育の推進

本市が目指す人間像の具現化のためには、「宇宙時代」に必要な資質・能力を身に付けた人材の育成が重要となることから、「宇宙や科学技術への夢や希望をはぐくむ教育」を推進してまいります。

現在、国は Society5.0 時代（※1）において、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、科学的に思考、吟味し活用する力、価値を見つけ出す感性と力、好奇心・探求力が重要であるとし、これらの力を身に付けるための思考の基盤をつくるために、「STEAM 教育」（※2）の導入の必要性を説いています。

本市の基本理念となる「宇宙や科学技術への夢や希望をはぐくむ教育」は、「STEAM」の見方や考え方を取り入れ、物事を多角的な視点から追究することで、学習者がより深く理解し、新たな考えを見いだすことができるよう支援する教育で、文系・理系を問わず全ての世代の学習者が楽しんで学んでいただける教育でもあります。

※1 「Society5.0」時代とは

新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となっている知識基盤社会と言われており、人口知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わるとされる時代

※2 「STEAM 教育」とは

S（Science：科学）、T（Technology：技術）、E（Engineering：工学）、A（Art：表現）、M（Mathematics：数学）等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

「新しい時代の初等中等教育の在り方について」
（平成 31 年 4 月 中央教育審議会 諮問）

(2)基本的方向性

「宇宙や科学技術への夢や希望をはぐくむ教育」の推進に当たっては、国の動向を見据えるとともに、国の宇宙開発利用を技術で支える中核的实施機関であり、社会に対して科学・技術で新たな価値を創造する宇宙航空研究開発機構（JAXA）をはじめ、宇宙開発等の最先端の専門知識や技能を有する大学や企業など一層連携・協働し、教育施策を展開していくことが肝要と考えます。

これまで教育委員会では、宇宙飛行士や科学者を目指す児童生徒を育成するための「若田宇宙飛行士アカデミー」をJAXAと連携して実施したり、小学生から高校生までの幅広い年代を対象としたロボット製作やロボット大会、ロケット実験、プログラミング講座などを、埼玉大学等と協働して開催したりしてまいりました。また、本市には、アンテナやレンズなどの分野において宇宙開発を支える優れた技術を持ち、世界シェアを誇る企業が存在しておりますことから、これらの企業をはじめとしたリーディングエッジ企業に協力いただき、展示や子ども向けの講座・実験等多数実施してまいりました。さらに、体験・体感型学習を通して、青少年の宇宙や科学への興味・関心を喚起し、宇宙への夢をはぐくむ「日本宇宙少年団（YAC）さいたま支部」（以下、「YAC」という）を、30年以上にわたり支援してまいりました。

このように、これまで実施してきた多種多様な事業を、基本理念である「宇宙や科学技術への夢や希望をはぐくむ教育の推進」のために、次の3つの基本的方向性に基づき、総合的・体系的に整理・統合しました。

【基本的方向性①】 宇宙や科学技術への興味・関心を高める「Discovery」

- 身の回りの「なぜ」「どうして」に気付き、好奇心を高める事業
- 科学の楽しさや面白さに触れ、興味・関心を高める事業
- ◆ STEAMの見方や考え方に触れる事業
（科学・技術・工学・表現・数学のそれぞれの視点で物事を見られるようにする事業）

【基本的方向性②】 主体的に挑戦し成長する「Challenge」

- 主体的に挑戦することで、体験から学び、成長する事業
- 協働し試行錯誤を繰り返す中で、自分の力を高める事業
- ◆ STEAMの見方や考え方を試す・磨く事業
（科学・技術・工学・表現・数学のいくつかの視点を組み合わせて、物事を見たり、問題を解決したりできるようにする事業）

【基本的方向性③】 学んだことを活用し発揮する「Action」

- 学んだことを活用し、主体的に自らの能力を発揮する事業
- 一人ひとりが自分らしく輝く事業
- ◆ STEAMの見方や考え方を活かす事業
（科学・技術・工学・表現・数学の領域の視点や技能を横断的に活用し、新たな考えを自ら見出せるようにする事業）

第2章 「宇宙のまち さいたま」アクションプラン

1 アクションプランの設定

「宇宙のまち さいたま」アクションプランは、本教育プロジェクトを実現するため既存の事業を STEAM 教育の視点から見直し、3つの基本的方向性「Discovery」「Challenge」「Action」に分類したものです。

事業への参加者は、「Discovery」のステージから始めて、「Challenge」、「Action」へと段階を経て学びを深めることができる仕組みとなっています。これにより学んだことを次のステージで活かしたり、基礎・基本を学びたくなった参加者は、前のステージに戻ったりすることでもできます。

また、発達年齢による異なる学びや経験値の違いにより、3つのどのステージから始めても参加者自身の学びが深まり、次のステージにつながるようスパイラルに組み立てられています。



2 アクションプランの見方や考え方

これ以降は、「宇宙のまち さいたま」が目指す人間像である「宇宙時代をたくましく生き 未来を創造する人」の実現を図るための事業を、3つの基本的方向性ごとに表に分類し、重点的に身に付けさせたい資質・能力と、重点的に取り入れる STEAM の見方や考え方を、解説と共に示しました。

【表の見方】

【表の見方】

★Discovery★

興味

創造

解決

表現

重点的に身に付けさせたい資質・能力

○ 身の回りの「なぜ」「どうして」に気付き、好奇心を高める事業。

○ 科学の楽しさや面白さに触れ、興味・関心を高める事業。

◆ STEAM の見方や考え方に触れる事業。

（科学・技術・工学・表現・数学のそれぞれの視点で物事を見られるようにする事業）

●プラネタリウム投影

科学

技術

工学

表現

数学

重点的に取り入れる STEAM の見方や考え方

全ての市立小学校第4学年と中学校第3学年、特別支援学校の児童生徒
ハイブリッド・プラネタリウムによる学習を通して、児童生徒の学びを

事業名

事業概要

【基本的方向性1】宇宙や科学技術への興味・関心を高める「Discovery」

「Discovery」では、宇宙や科学技術への興味・関心をもつきっかけとなる体験活動などを実施します。また、STEAM の見方や考え方に触れる場として、科学・技術・工学・表現・数学それぞれの視点で物事を見られるようにします。

★Discovery★

興味

創造

解決

表現

やり抜く

- 身の回りの「なぜ」「どうして」に気付き、好奇心を高める事業
- 科学の楽しさや面白さに触れ、興味・関心を高める事業
- ◆ STEAM の見方や考え方に触れる事業
(科学・技術・工学・表現・数学のそれぞれの視点で物事を見られるようにする事業)

●プラネタリウム投影

科学 技術 工学 表現 数学

全ての市立小学校第4学年と中学校第3学年、特別支援学校の児童生徒を対象に実施する、ハイブリッド・プラネタリウムによる学習を通して、児童生徒の学びを深めます。

●企画展

科学 技術 工学 表現 数学

ダンボール展やプログラミング展など「見て、ふれて、考えて、チャレンジできる」参加型学習展示物で、好奇心や思考力を高めます。

●講演会

科学 技術 工学 表現 数学

宇宙や科学技術等の専門家による講演会を通して、宇宙や科学技術等への知的好奇心や探究心を高めます。

●スクール・サポート・サイエンス事業

科学 技術 工学 表現 数学

市立小学校第3学年・第6学年を対象とした出前授業や、市立小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校を対象とした出前天体観望会を通して、科学への興味・関心を高めます。

●天体観望会

科学 技術 工学 表現 数学

プラネタリウム解説や天体望遠鏡などによる天体の観察を通して、四季折々の星座やその時期の天文情報を楽しみながら学ぶことにより、天体や宇宙への興味・関心を高めます。

●サイエンスショー・特別サイエンスショー

科学 技術 工学 表現 数学

多種多様なテーマで楽しく学ぶ科学実験ショーを通して、科学の面白さや不思議さを感じ、科学に対する興味・関心を高めます。

●「若田光一宇宙飛行士コーナー」体験ツアー

科学 技術 工学 表現 数学

若田宇宙飛行士のゆかりの品や宇宙服など展示物の解説、国際宇宙ステーション内の施設(個室・トイレの実物大模型)の見学や体験を通して、宇宙開発への興味・関心を高めます。

●宇宙劇場まつり

科学 技術 工学 表現 数学

若田宇宙飛行士が、初フライトで地球に帰還した日を記念し、市民によるワークショップなどの各種イベントを通じて、市民の宇宙への興味・関心を高めます。

【基本的方向性2】主体的に挑戦し成長する「Challenge」

「Challenge」では、想像力・創造力や問題解決能力、最後までやり抜く力をはぐくむため、問題解決型の体験やものづくりなどを実施します。また、STEAM の見方や考え方を試す・磨く場として、いくつかの視点を組み合わせて、物事を見たり、問題を解決したりできるようにします。

★Challenge★ 興味 創造 解決 表現 やり抜く

- 主体的に挑戦することで、体験から学び、成長する事業
- 協働し試行錯誤を繰り返す中で、自分の力を高める事業
- ◆ STEAM の見方や考え方を試す・磨く事業
(科学・技術・工学・表現・数学のいくつかの視点を組み合わせて、物事を見たり、問題を解決したりできるようにする事業)

●若田宇宙飛行士アカデミー ロボットコース 科学 技術 工学 表現 数学

ロボットづくり等を通して、ロボットや科学技術への興味・関心を高めるとともに、創造力を伸ばし、問題解決能力と最後までやり抜く力をはぐくみます。

●高校生ロケット教室 科学 技術 工学 表現 数学

チームで協働してのロケットづくりやロケットの発射を通して、宇宙開発や科学技術への興味・関心を高めるとともに、問題解決能力と最後までやり抜く力をはぐくみます。

●コズミックカレッジ 科学 技術 工学 表現 数学

宇宙をテーマにした JAXA との共同科学教育プログラムを実施し、科学の楽しさや不思議さに触れ、宇宙や科学への興味・関心や探究意欲を高めます。

●ロボットミッション1・2・3 科学 技術 工学 表現 数学

ロボットづくりを通して、ものづくりの喜びや達成感・成就感を味わわせるとともに、ロボットの操作を通して楽しみながら課題を解決する場面を設定することにより、科学技術への興味・関心を喚起し、問題解決能力をはぐくみます。

●天文宇宙教室 科学 技術 工学 表現 数学

プラネタリウム解説や天体望遠鏡等を使った天体の観察を通して、より専門的な視点から宇宙について学ぶなかで、宇宙の神秘を感じ、天体への興味・関心を高めます。

●ワークショップ 科学 技術 工学 表現 数学

身のまわりの素材を使った簡単なものづくりを通して、その仕組みやものづくりへの興味・関心を高め、作る喜びや達成感を味わい、想像力・創造力をはぐくみます。

●市民大学 科学コース 科学 技術 工学 表現 数学

プラネタリウム解説員体験やロボットを使ったプログラミング体験などを通して、自発的な学習活動を促し、科学への興味・関心や探究意欲を高めます。

●YAC 支援事業 科学 技術 工学 表現 数学

YACの活動を積極的に支援することにより、宇宙への夢をはぐくみます。

【基本的方向性3】 学んだことを活用し発揮する「Action」

「Action」では、5つの資質・能力をさらに伸ばすために、これまで学んできたことを活用し、主体的に自らの能力を発揮できるような事業を行います。また、STEAM の見方や考え方を活かす場として、参加者自身が、科学・技術・工学・表現・数学の各領域の視点や技能を横断的に活用し、新たな考えを自ら見出せるようにします。

★Action★

興味

創造

解決

表現

やり抜く

○ 学んだことを活用し、主体的に自らの能力を発揮する事業

○ 一人ひとりが自分らしく輝く事業

◆ STEAM の見方や考え方を活かす事業

（科学・技術・工学・表現・数学の領域の視点や技能を横断的に活用し、新たな考えを自ら見出せるようにする事業）

●若田宇宙飛行士アカデミー スペースコース

科学 技術 工学 表現 数学

体験型・参加型学習により、宇宙や科学技術への興味・関心を一層高めるとともに、多角的な視点をもって仲間と協働し、課題解決に向けて、粘り強く取り組みます。

●サイエンスフェスティバル

科学 技術 工学 表現 数学

さいたま市内の中・中等教育・高等学校の科学部等が集まり、ワークショップ形式の科学的なものづくり等を企画・運営することを通して、プレゼンテーション能力を鍛えるとともに、年少者に教えるなどコミュニケーションを図ることで、達成感や成就感を味わいます。

●若田名誉館長杯ロボット大会

科学 技術 工学 表現 数学

仲間と協働で、ロボット製作上の課題解決のために試行錯誤しながらも、ものづくりの楽しさを味わうとともに、最後までやり抜く力を発揮します。

※ローバーロボット大会とキャリア・シュートロボット大会を隔年で開催します。

●科学館ボランティア

科学 技術 工学 表現 数学

科学館職員と緊密に連携し、科学的知識の普及・啓発に努める中で、創造力や問題解決能力をはぐくむとともに、来館者への相手意識やコミュニケーション能力を高めます。

●SSH サイエンス・ラボ

科学 技術 工学 表現 数学

SSH（スーパーサイエンスハイスクール※）の生徒が、これまでの学びを活かし、さいたま市内の小・中学生に宇宙や科学の楽しさを伝えるイベントを開催します。※市立大宮北高等学校

上記3つの基本的方向性「Discovery」「Challenge」「Action」に横串を通し、横断的な内容で展開する新規事業「宇宙のまち さいたま」フォーラムを毎年実施します。

「宇宙のまち さいたま」フォーラム とは

本フォーラムは、宇宙に関わる専門家、大学、企業等の協力を得て、宇宙や科学の最先端の知識や技術等を扱う講演会や、各種事業での成果発表として、ロボットやロケットの展示、若田宇宙飛行士アカデミー修了生の体験発表をはじめ、実験教室やワークショップなど体験型・参加型のビッグイベントを年1回開催します。

これにより、参加者が宇宙や科学の面白さや不思議さに触れ、宇宙や科学へのあこがれや大きな志を膨らませるとともに、イベントを通して協働・交流することで「宇宙のまち さいたま」への誇りを高めてくれることを期待しています。

「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクト

宇宙時代をたくましく生き 未来を創造する人

夢・探究心・思いやり

身に付けさせたい資質・能力

- 宇宙・科学技術への興味・関心
- 想像力・創造力
- 問題解決能力
- 表現力 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力
- 最後まであきらめずにやり抜く力

★「宇宙のまち さいたま」アクションプラン★

宇宙や科学技術への夢や希望をはぐくむ教育の推進

STEAM の見方や考え方

STEAM の見方や考え方を事業に取り入れ、物事をより深く理解し、新たな考えを見出すことができるように支援します。

Science(科学) Technology(技術) Engineering(工学) Art(表現) Mathematics(数学)

Discovery

宇宙や科学技術への
興味・関心を高める

STEAM の見方や考え方に触れる

- プラネタリウム投影
- 企画展 ●講演会
- スクール・サポート・サイエンス事業
- 天体観望会 ●サイエンスショー
- 宇宙劇場まつり

Challenge

主体的に挑戦し成長する

STEAM の見方や考え方を試す・磨く

- 高校生ロケット教室
- コスミックカレッジ
- 天文宇宙教室 ●ワークショップ
- 市民大学 科学コース
- YAC 支援事業

●若田宇宙飛行士アカデミー「スペースコース」「ロボットコース」

Action

学んだことを活用し発揮する

STEAM の見方や考え方を活かす

- サイエンスフェスティバル
- 若田名誉館長杯ロボット大会
- 科学館ボランティア
- SSH サイエンス・ラボ

「宇宙のまち さいたま」フォーラム(年 1 回開催予定)

宇宙や科学の最先端の知識や技術等を扱う講演会や、各種事業での成果発表として、ロボットやロケットの展示、若田宇宙飛行士アカデミー修了生の体験発表をはじめ、実験教室やワークショップなど体験型・参加型のビッグイベント

「宇宙のまち さいたま」サポーター 各機関・団体の協力

宇宙や科学に関する専門的知識や技術をもった人材や大学、企業等の研究者、さいたま市リーディングエッジ企業等が、「宇宙のまち さいたま」サポーターとして、事業を支援します。

大学・企業 等

最先端の科学技術をもつ大学・企業と
連携したプログラム

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

JAXA と連携した「宇宙で学ぶ」プログラム

小・中・中等教育・高等・特別支援学校

学校と連携した学びを深めるプログラム

科学館ボランティア 等

ボランティアと連携した
科学教育プログラム

「夢・探究心・思いやり」とは

若田宇宙飛行士が、宇宙でのミッションを遂行するにあたり、常に胸に刻んでいた3つの言葉

さいたま市青少年宇宙科学館



所在地 〒330-0051 さいたま市浦和区駒場2-3-45

TEL 048(881)1515(代)

FAX 048(882)9702

URL <https://www.city.saitama.jp/kagakukan/index.html>

初版 第1刷発行